

岡本 孝司

東京大学大学院 工学系研究科 原子力専攻
教授

東京都文京区本郷7-3-1

e-mail: okamoto@n.t.u-tokyo.ac.jp

日本原子力研究開発機構 廃炉環境国際共同研究センター
センター長

福島県双葉郡富岡町本岡字王塚 790-1



経歴

- 昭和 58 年 3 月 東京大学工学部原子力工学科卒業
- 昭和 60 年 3 月 東京大学大学院工学系研究科原子力工学専門課程修士課程修了
- 昭和 60 年 4 月 三菱重工業(株) 神戸造船所勤務
- 昭和 63 年 6 月 東京大学工学部原子力工学科助手
- 平成 5 年 2 月 東京大学工学部附属原子力工学研究施設助教授
(平成 6 年 3 月～ 米国テキサス A&M 大学客員助教授)
- 平成 16 年 4 月 東京大学大学院工学系研究科教授
- 平成 17 年 4 月 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
- 平成 23 年 4 月 東京大学大学院工学系研究科教授
(平成 30 年 4 月 日本原子力研究開発機構廃炉環境国際共同研究センター長 兼務)

岡本教授は、原子力工学を専門とし、その中でも原子力安全学、原子炉熱流動学など、原子力システムの安全性に関する研究教育を長年にわたり実施してきた。東京大学が保有する原子炉「弥生」の原子炉主任技術者を務めた経験があり、原子力システムの現場での経験も長い。現在、原子炉「弥生」は廃止措置中であるが、廃止措置主任者として廃止措置の安全確保に努めている。

福島第一原子力発電所事故後は、原子力賠償・廃炉支援機構の様々な委員会委員など、福島第一原子力発電所の廃炉に関する研究、教育活動を積極的に進めている。また、アメリカ、フランス、スイスを始めとした、海外の原子力発電所や規制当局を 30 ヶ所以上訪問するなど、海外の原子力安全規制や、原子力安全対策に対する深い経験を持っている。英国物理学会フェロー、日本工学会フェローなど。平成 30 年より、日本原子力研究開発機構 廃炉環境国際共同研究センターセンター長兼務